

3. 市民意見

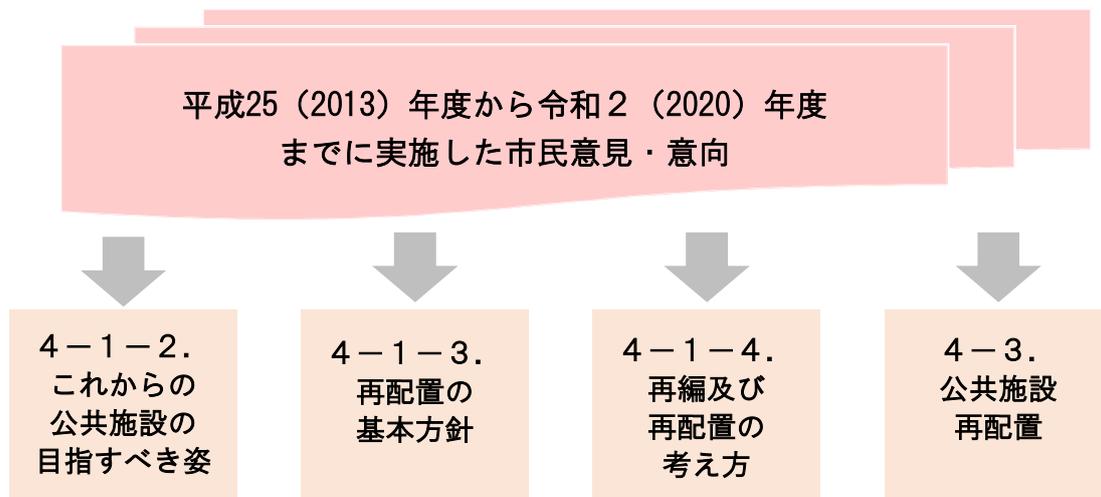
本市が所有する公共施設の大半は市民の生活に密着したものであり、その再配置にあたっては市民自らが自分たちのための施設として考え、そのあり方について関心をもって検討していくべきと考えます。

また、単に公共施設を統廃合するということではなく、市民が真に求める施設を把握し、必要な機能を維持していくためにどのような工夫が必要であるか、利用者である市民の立場からの意見を公共施設の再編・再配置に反映させる必要があると考えています。

さらに、たとえ複数の施設を廃止した場合でも、地域に必要な機能を残すことが、地域に根差し、地域住民自らが進んで利用できる施設になることができると考えています。

よって、平成25（2013）年度から令和2（2020）年度までの8年間において、市民の皆さまに、各種意向調査及び個別ヒアリング調査のご協力をいただきました。

これらの市民意見・意向については、「4. 再配置計画」の中で、①これからの公共施設の目指すべき姿の設定、②再配置の基本方針、③再編及び再配置の考え方と、最終的に施設のあり方を決める④公共施設再配置に反映しています。



3-1. 平成 25 (2013) 年度市民意向 (アンケート) 調査

市民意見・意向の把握のため、平成 25 (2013) 年度に実施した再配置の検討にあたっての市民意向調査結果の概要を整理しました。

なお、調査結果では「市民の方々の半数以上が、公共施設をあまり利用しておらず、廃止・統合もやむを得ないと感じている」ことが明らかとなりました。(表 3-1)

表 3-1 平成 25 (2013) 年度市民意向 (アンケート) 調査結果の概要

調査結果	<p>① 公共施設の建替え(改築)、廃止、統合などの検討については、約8割の市民が必要を感じています。社会全体が老朽化した施設への対応について関心を持ち、何らかの対応が必要であると考えている市民が多いことが伺えます。</p> <p>② 公共施設の利用状況に関する質問について、良く利用すると回答した市民は約3割、あまり利用しない、または、利用しないと回答した市民は、約7割となっています。</p> <p>また、廃止や統合についての考え方について、廃止・統合はやむを得ないと回答した市民が約7割となっており、その理由として、効率的な管理・運営、維持管理費用、建替えによる財政負担など、市の財政面を理由とする市民が約7割となっています。考慮することとしては、残す施設は、安心安全な施設に改善することが約4割と、一番高い結果となっています。</p> <p>③ 自由意見の中にも、各施設の利用状況、稼働率を見て、廃止・統合を進めるべきとの意見、施設の耐震化や施設の安全面に関する意見が多く寄せられました。</p>	<p>図表 1: 公共施設の利用状況</p> <table border="1"> <tr><th>利用状況</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ア. 良く利用する</td><td>30.66%</td></tr> <tr><td>イ. あまり利用しない</td><td>37.82%</td></tr> <tr><td>ウ. 利用しない</td><td>31.23%</td></tr> <tr><td>エ. 回答なし</td><td>0.29%</td></tr> </table> <p>図表 2: 公共施設の廃止・統合の考え方</p> <table border="1"> <tr><th>考え方</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ア. 公共施設の廃止・統合はやむを得ない・推進すべき</td><td>69.05%</td></tr> <tr><td>イ. 現在ある公共施設は長寿命化を図り維持するべき・維持してほしい</td><td>29.80%</td></tr> <tr><td>ウ. 回答なし</td><td>1.15%</td></tr> </table>	利用状況	割合	ア. 良く利用する	30.66%	イ. あまり利用しない	37.82%	ウ. 利用しない	31.23%	エ. 回答なし	0.29%	考え方	割合	ア. 公共施設の廃止・統合はやむを得ない・推進すべき	69.05%	イ. 現在ある公共施設は長寿命化を図り維持するべき・維持してほしい	29.80%	ウ. 回答なし	1.15%
利用状況	割合																			
ア. 良く利用する	30.66%																			
イ. あまり利用しない	37.82%																			
ウ. 利用しない	31.23%																			
エ. 回答なし	0.29%																			
考え方	割合																			
ア. 公共施設の廃止・統合はやむを得ない・推進すべき	69.05%																			
イ. 現在ある公共施設は長寿命化を図り維持するべき・維持してほしい	29.80%																			
ウ. 回答なし	1.15%																			
市民の方々の半数以上が、公共施設をあまり利用しておらず、廃止・統合もやむを得ないと感じています。																				

3-2. 平成 25 (2013) 年度第 1 回鶴ヶ島市市民意見交換会

市民意見の重要性を考慮し、本市が抱える様々な課題を市民と共有する機会を設置し、幅広い意見交換を通じて、今後の鶴ヶ島市にふさわしい公共施設利用計画を策定することを目的に、平成 25 (2013) 年度に開催した第 1 回市民意見交換会の意見の概要を整理しました。(表 3-2)

表 3-2 平成 25 (2013) 年度第 1 回鶴ヶ島市市民意見交換会の意見の概要

鶴ヶ島中学校区(会場：鶴ヶ島市役所)	<ul style="list-style-type: none"> ① 女性センターのホールを充実すべきである。 ② 女性センターの男女共同参画等の設置目的は達成されたのではないか。 ③ 市民活動推進センターは、限られた市民しか利用していない。本当に必要なのか。 ④ 老人福祉センターの配置が悪い。
西中学校区(会場：西市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健センターと女性センターなど場所が近い施設は統合すべきだ。 ② 女性センター、保健センター、老人福祉センターを統合するなど福祉施設を市の中心に配置すべきだ。 ③ 体育館等の屋内施設がほしい。 ④ 農大跡地に公共施設は建てないでほしい。 ⑤ 北市民センターを改修し、避難所としての機能を付加してほしい。
南中学校区(会場：大橋市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 富士見地区に公共施設が集中している。三ツ木、太田ヶ谷など他の地域も考慮してほしい。 ② 高速道路によって地域が分断されていることを考慮してほしい。 ③ 市民センター6か所について、総量、配置は適正であり、他市に勝っている。
藤中学校区(会場：南市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 男女共同参画の視点で、女性センターがなくなるのは信じられない。 ② 藤金は人口が多いのに施設がない。若葉駅前など施設があってしかるべきだ。 ③ 保健センター等、行きづらい人が多い。他の施設に出張するなど行ける工夫をしてほしい。 ④ 公共施設は、歩いて行ける範囲として現状のままが良い。
富士見中学校区(会場：富士見市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 富士見市民センターはなくさないでほしい。 ② 富士見地区に児童館があってほしい。 ③ 大きいホールや体育館がほしい。 ④ 民間の施設や他市と連携して、施設機能を補充していくべきだ。 ⑤ 現在は偏った地域に公共施設があるため、藤金や共栄町などの地域に公共施設をつくった方がよい。 ⑥ 住宅密集地に施設が多く配置されるのは当然で、現在の施設配置は適正である。 ⑦ 自治会館の機能を拡充して市民センターとして利用できるようにしてほしい。また、週に1回保健師に訪問してもらい相談したい。さらに、サロンとして活用したい。
各会場で多く出された意見について	<ul style="list-style-type: none"> ① 幅広い世代が一緒に利用できる施設機能を整備してほしい。 ② 子どもと高齢者が利用しやすい(子育てしやすい)施設が必要である。 ③ 現状の施設数を維持してほしい。 ④ 施設配置について、人口または距離によって配置を考えるべきである。 ⑤ 財政の観点や施設数から、施設の複合化を検討すべきである。 ⑥ 防災機能、防犯機能として、公共施設の役割は重要である。 ⑦ 市が用意した資料だけでは判断できない。市の人口分布や地域間距離、施設間距離がわかる資料がほしい。 ⑧ 施設の稼働率だけで、施設の統廃合を考えるべきではない。 ⑨ まず市が素案を示すべきだ。 ⑩ 市民意見を十分に取入れた施設づくりをしてほしい。

3-3. 平成 25 (2013) 年度第 2 回鶴ヶ島市市民意見交換会

第 1 回に続き、市民意見の重要性を考慮し、本市が抱える様々な課題を市民と共有する機会を設置し、幅広い意見交換を通じて、今後の鶴ヶ島市にふさわしい公共施設利用計画を策定することを目的に、平成 25 (2013) 年度に開催した第 2 回市民意見交換会の意見の概要を整理しました。(表 3-3)

表 3-3 平成 25 (2013) 年度第 2 回鶴ヶ島市市民意見交換会の意見の概要 (1/2)

鶴ヶ島中学校区(会場：鶴ヶ島市役所)	<ul style="list-style-type: none"> ① 現在の市財政状況を考えると新しい施設を建設するよりも、今の施設をどうするか考えたほうが良い。 ② 地域の活性化のためには市民センターが必要である。 ③ 鶴ヶ島海洋センターは、特化した設備(体育館)があるから稼働率が高い。そういった特色ある施設が必要である。 ④ 東武東上線沿線の人が利用できるように、多機能複合化施設を民間商業施設付近に建設し、鶴ヶ島市の目玉、強みにしてはどうか。
西中学校区(会場：西市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 女性センターの名称は差別的である。どうして誰もが使いやすい「市民会館」などの名称にしなかったのか。 ② 他市に比べホールがないのだから、女性センターは必要である。また、文化を進める意味でも必要な施設である。 ③ 市民センターの配置は問題ないが、学校の配置はあまり良くない。 ④ 北市民センターは近くに小・中学校がなく、防災機能が弱いと思われるので、機能強化を図ってほしい。
南中学校区(会場：大橋市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 大きな文化的ホールは必要だが、近隣市のホールを相互利用できるようになれば鶴ヶ島市になくても良い。 ② 大きなホールが女性センターでは、男性は使いづらい。施設の名前のつけ方を工夫してほしい。 ③ 鶴ヶ島第二小学校のように空いた部屋の有効活用を進めるべきだ。 ④ 地域に小さなコミュニティの場を設け(今ある施設や空き家等)、市の中心部に複合施設を設ける。 ⑤ 地域、市民が自主的に管理するミニ施設を考える。 ⑥ 多機能化は、現在の西市民センターをベースに+αで考える。
藤中学校区(会場：南市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 現在の市民センターと自治会館を同じような扱いにしたらどうか。 ② 上広谷第2自治会は自治会館を造らず、市民センターを活用することとした経緯があるので南市民センターは必要である。 ③ 中心となる施設があって、その周りに小さな(身近な)施設があると良い(自治会館等の有効活用はできないのか)。 ④ 新しい施設を造るのではなく、今ある施設を充実させてほしい。 ⑤ 現在の配置は、人口規模に合わせて配置されたものであり、現状のままで良い。
富士見中学校区(会場：富士見市民センター)	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健センターは良く利用するが、交通の便が悪い。保健センターが行っているサービスを他の施設でも行ってほしい。 ② 鶴ヶ島市の施設(体育館、ホール、グラウンド等)の質は中途半端なので、質を向上させてほしい。 ③ 自治会館に機能を追加することで数を確保するべきである。 ④ 藤金等の施設空白地帯にも空き店舗等を利用した小規模施設を配置する。 ⑤ 富士見地区の施設は適正配置であり、恵まれている。 ⑥ 若葉駅西口にマンションが建ち、若い世代が増えたが、集まる施設がないと耳にする。施設や自治会館が必要ではないのか。 ⑦ 富士見市民センターに調理室がほしい。

表 3-3 平成 25 (2013) 年度第 2 回鶴ヶ島市市民意見交換会の意見の概要 (2 / 2)

各会場で多く出された意見について	<ul style="list-style-type: none"> ① 多機能複合化施設は、子どもと高齢者が触れ合える施設が良い。 ② 少子化で使わなくなった学校のスペースを有効活用できないか。 ③ 施設を複合化すれば、無駄をなくすことにつながる。 ④ 施設の複合化とセットに、公共交通機関の充実が必要だ。 ⑤ 将来の鶴ヶ島市にふさわしい公共施設を考えるので、若い世代(子育て世代)の意見も必要ではないか。 ⑥ 若い世代が定住化するような、魅力的なまちづくりをしてほしい。 ⑦ 公共施設の防災機能の強化が必要である。 ⑧ 高齢者が利用しやすい施設が必要である。 ⑨ コミュニティ施設を徒歩圏に配置すべきだ。 ⑩ 自治会館を有効活用できないのか。 ⑪ 将来を見据えた公共施設利用計画を策定してほしい。
------------------	---

3-4. 平成 26 (2014) 年度鶴ヶ島市公共施設等利用計画 (案) パブリックコメント

平成 26 (2014) 年度に策定を行った鶴ヶ島市公共施設等利用計画 (案) について、市民コメント実施要綱に基づき、市民からの意見募集に寄せられた意見の概要を整理しました。(表 3-4)

表 3-4 平成 26 (2014) 年度鶴ヶ島市公共施設等利用計画 (案) パブリックコメントの意見の概要

寄せられたコメントの概要	① 計画全般に対する意見	公共施設は、それぞれの目的に沿って設けられているが、安心安全に立って、市民の誰もが利用しやすくなるよう検討の上、計画されることを望む。(他 13 件)
	② 市民意見の聴取に対する意見	市民意見をしっかりと取り入れていただきたい。(他 4 件)
	③ 教育施設に対する意見	幼児・児童、子育て中の母親や高齢者が集えるよう、学校の空き教室を開放するべきです。(他 5 件)
	④ 学習施設に対する意見	図書館分室をなくすことになれば、身近な図書館でなくなり、利用率の低下は避けられない。(他 13 件)
	⑤ 福祉施設に対する意見	学童保育の消滅は、閉鎖予定のものが数しか示されておらず、地区によって格差を生むと思われます。(他 4 件)
	⑥ その他の意見	建物は、行政と民間の共有持分とし、公共施設以外に民間商業施設も併用とする等の、一定条件の基でモデルプランとして、複合施設を市内の全く新しい場所(更地)に建設することを提案します。(他 14 件)

3-5. 令和元（2019）年度公共施設利用者アンケート調査

公共施設の立地や利用状況等の満足度、今後の公共施設への要望等、施設利用者がどのような考えを持っているかを把握するため、令和元（2019）年度に実施したアンケート調査結果の概要を整理しました。（表3-5）

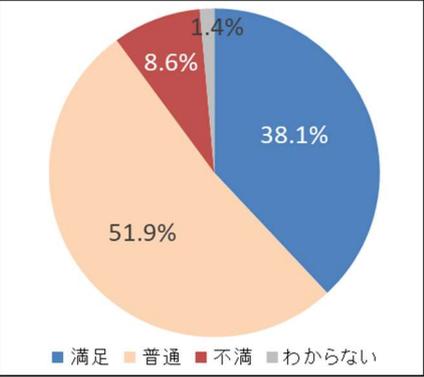
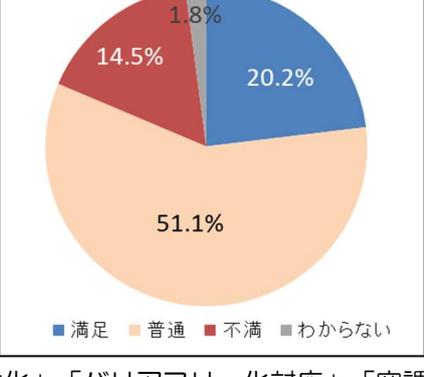
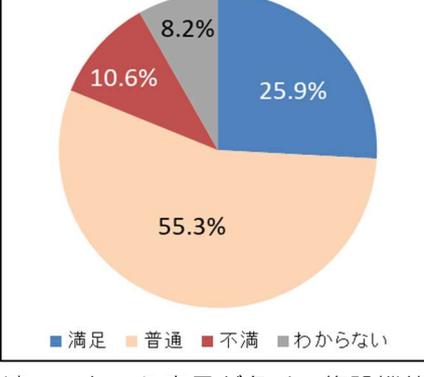
表3-5 令和元（2019）年度公共施設利用者アンケート調査結果の概要（1/3）

<p>総括</p>	<p>① 公共施設の立地性や建物の使い勝手・快適性については、不便・不満より、便利・満足と答える回答の割合が多い結果となりました。しかし、施設ごとの立地や老朽化の状況によって、不便・不満という割合が高くなる傾向が見られました。</p> <p>② 自由意見としては、公共施設の立地について、バスの本数を増加させるなどの公共交通機関の充実や駐車場の拡充（全体の敷地面積・一台当たりの駐車面積）等の意見が多くありました。また、今後の公共施設への要望について、「建物の老朽化への対応・不具合の修繕」や「トイレの洋式化等の機能性向上」、「建物自体の建替え」や「音響の良いホール」、「体育館の新設」などの意見がありました。</p> <p style="text-align: center;">公共施設の利用について、概ね満足であるという結果が得られました。</p>
<p>アンケート配布時に利用した施設の他に、良く利用する公共施設について</p>	<p>① 「ある」と答えた人は約56%、「ない」と答えた人は約44%という結果でした。アンケートを回収した施設別に傾向を見ると、「ある」と答えた人の割合が多かった施設は、脚折児童館、中央図書館、市民活動推進センターでした。また、「ない」と答えた人の割合が多かった施設は、西市民センター、学校開放施設、鶴ヶ島海洋センターでした。</p> <p>② 老人福祉センターの利用者は、同様の機能を持つ他市の公共施設を利用しており、また、つどいの広場（主に乳幼児の親子が集まって交流できる場）の利用者は、児童館や図書館を良く利用している傾向が見られました。</p> <div data-bbox="1002 981 1378 1352" style="text-align: center;"> <p>■ある ■ない</p> </div>
<p>アンケート配布時に利用した施設の利用目的について</p>	<p>① 「趣味・サークル」、「運動・体操・ダンス」で全体割合の半分以上を占めています。</p> <p>② 施設ごとの割合では、市民センターでは「趣味・サークル」の割合が多く、鶴ヶ島海洋センターでは「運動・体操・ダンス」が、市民活動推進センターでは「集会・会議」が多いなど、施設が持つ機能に応じた利用の割合が大きくなる傾向がありました。</p> <div data-bbox="619 1532 1385 1989" style="text-align: center;"> </div>

表 3-5 令和元（2019）年度公共施設利用者アンケート調査結果の概要（2 / 3）

<p>施設の利用頻度について</p>	<p>① 「週1回程度」の利用頻度が最も多く、全体の約半分を占めています。次いで、「月1回程度」が約26%、「週に複数回」が約21%となっており、公共施設の利用者の施設利用頻度は、月1回以上利用することがほとんどであり、定期的に良く利用している割合が大きい結果となりました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>利用頻度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>週に複数回</td> <td>20.7%</td> </tr> <tr> <td>週1回程度</td> <td>46.8%</td> </tr> <tr> <td>月1回程度</td> <td>25.8%</td> </tr> <tr> <td>半年に1回程度</td> <td>5.4%</td> </tr> <tr> <td>年に1回程度</td> <td>1.3%</td> </tr> </tbody> </table>	利用頻度	割合	週に複数回	20.7%	週1回程度	46.8%	月1回程度	25.8%	半年に1回程度	5.4%	年に1回程度	1.3%				
利用頻度	割合																	
週に複数回	20.7%																	
週1回程度	46.8%																	
月1回程度	25.8%																	
半年に1回程度	5.4%																	
年に1回程度	1.3%																	
<p>公共施設への交通手段について</p>	<p>① 自動車の利用が最も多く、全体の約半分を占めています。次いで、自転車と徒歩と続き、この3つが主な施設への交通手段でした。なお、電車の利用は、市民活動推進センターを利用時に、また、バスは、老人福祉センターを利用する時の交通手段としての回答がほとんどでした。バスの利用については、「本数が少なくて不便」、「遠くの施設に行く際は、乗り継ぎが面倒」という意見が多く、実際に利用者も少ない結果となりました。</p> <p>② 施設利用者の住まいは、利用施設の近隣以外も市内全域の住まいから利用されている傾向があり、距離に関係なく、自動車の移動によって、目的の施設を利用していることがわかりました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>交通手段</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自動車</td> <td>47.7%</td> </tr> <tr> <td>自転車</td> <td>23.7%</td> </tr> <tr> <td>徒歩</td> <td>21.5%</td> </tr> <tr> <td>電車</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>バス</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>タクシー</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.8%</td> </tr> </tbody> </table>	交通手段	割合	自動車	47.7%	自転車	23.7%	徒歩	21.5%	電車	4.3%	バス	2.0%	タクシー	0.0%	その他	0.8%
交通手段	割合																	
自動車	47.7%																	
自転車	23.7%																	
徒歩	21.5%																	
電車	4.3%																	
バス	2.0%																	
タクシー	0.0%																	
その他	0.8%																	
<p>公共施設の立地、利便性について</p>	<p>① 「便利」と答えた人は約67%、「不便」と答えた人は約6%、「どちらともいえない」と答えた人は27%という結果でした。</p> <p>② 「便利」と答えた人の傾向としては、施設の近所に住んでいるという理由が多く、施設別に見ると、駅近くの立地性の良い市民活動推進センターが「便利」の回答割合が高い結果となりました。</p> <p>③ 「不便」と答えた人の中で、「バスの本数が増えれば、もっと利用しやすい」という意見が複数ありましたが、年齢的な偏りは見られませんでした。</p> <p>④ 「どちらともいえない」という意見の多くは市外利用者が占めていました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>便利</td> <td>66.6%</td> </tr> <tr> <td>不便</td> <td>6.4%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>27.0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	便利	66.6%	不便	6.4%	どちらともいえない	27.0%								
回答	割合																	
便利	66.6%																	
不便	6.4%																	
どちらともいえない	27.0%																	

表 3-5 令和元（2019）年度公共施設利用者アンケート調査結果の概要（3 / 3）

<p>公共施設の 使い勝手や 快適性につ いて</p>	<p>① 「満足」と答えた人は約 38%、「普通」と答えた人は約 52%、「不満」と答えた人は約 9%という結果でした。</p> <p>② 「満足」と答えた人の中で、最も多い割合を示した施設は、脚折児童館であり、児童館は全体的に高い傾向でした。</p> <p>③ 「不満」と答えた人は、全体の約 9%と少ない結果となりましたが、「不満」という回答が最も多かった施設は、鶴ヶ島海洋センターで、25%が「不満」という回答でした。</p> <p>④ 「不満」と答えた意見の中には、「使用する部屋の床や畳の状況（滑りやすさや痛み具合）」、「備品が古いので新しくしてほしい」、「鏡を設置してほしい」というものが複数ありました。</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>普通</th> <th>不満</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>38.1%</td> <td>51.9%</td> <td>8.6%</td> <td>1.4%</td> </tr> </tbody> </table>	満足	普通	不満	わからない	38.1%	51.9%	8.6%	1.4%
満足	普通	不満	わからない							
38.1%	51.9%	8.6%	1.4%							
<p>利用施設の 設備（便所、 空調、給湯 等）の使い 勝手や快適 性について</p>	<p>① 「満足」と答えた人は約 20%、「普通」と答えた人は約 51%、「不満」と答えた人は約 15%という結果でした。</p> <p>② 「満足」と答えた人の中で、高い割合を示した施設は、市民活動推進センター、中央図書館、脚折児童館でした。</p> <p>③ 「不満」と答えた人が高い割合を示した施設は、東市民センター、南市民センター、鶴ヶ島海洋センター、大橋児童館でした。</p> <p>④ 「不満」の意見としては、「和式便器の洋式化」、「バリアフリー化対応」、「空調の不具合」の意見が多く、施設機能ごとの傾向はなく、施設の老朽化状況に関連した共通の傾向が見られました。</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>普通</th> <th>不満</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20.2%</td> <td>51.1%</td> <td>14.5%</td> <td>1.8%</td> </tr> </tbody> </table>	満足	普通	不満	わからない	20.2%	51.1%	14.5%	1.8%
満足	普通	不満	わからない							
20.2%	51.1%	14.5%	1.8%							
<p>利用施設の 駐車場や駐 輪場などの 屋外施設の 使い勝手に ついて</p>	<p>① 「満足」と答えた人は約 26%、「普通」と答えた人は約 55%、「不満」と答えた人は約 11%という結果でした。</p> <p>② 「満足」と答えた人の中で、高い割合を示した施設は、北市民センター、中央図書館、脚折児童館、老人福祉センター、鶴ヶ島海洋センターでした。</p> <p>③ 「不満」と答えた人が高い割合を示した施設は、南市民センター、西市民センター、上広谷児童館でした。</p> <p>④ 「不満」の意見としては、「駐車場が狭い、遠い」という意見が多く、施設機能ごとの傾向はなく、施設の駐車場の利便性に関連した共通の傾向が見られました。</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>普通</th> <th>不満</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25.9%</td> <td>55.3%</td> <td>10.6%</td> <td>8.2%</td> </tr> </tbody> </table>	満足	普通	不満	わからない	25.9%	55.3%	10.6%	8.2%
満足	普通	不満	わからない							
25.9%	55.3%	10.6%	8.2%							

3-6. 令和2（2020）年度公共施設再編に関するアンケート調査

今後の公共施設のあり方や再配置を検討し、個別利用実施計画を策定していくための基礎資料とすることを目的に、令和2（2020）年度に実施したアンケート調査結果の概要を整理しました。（表3-6）

表3-6 令和2（2020）年度公共施設再編に関するアンケート調査結果の概要（1/5）

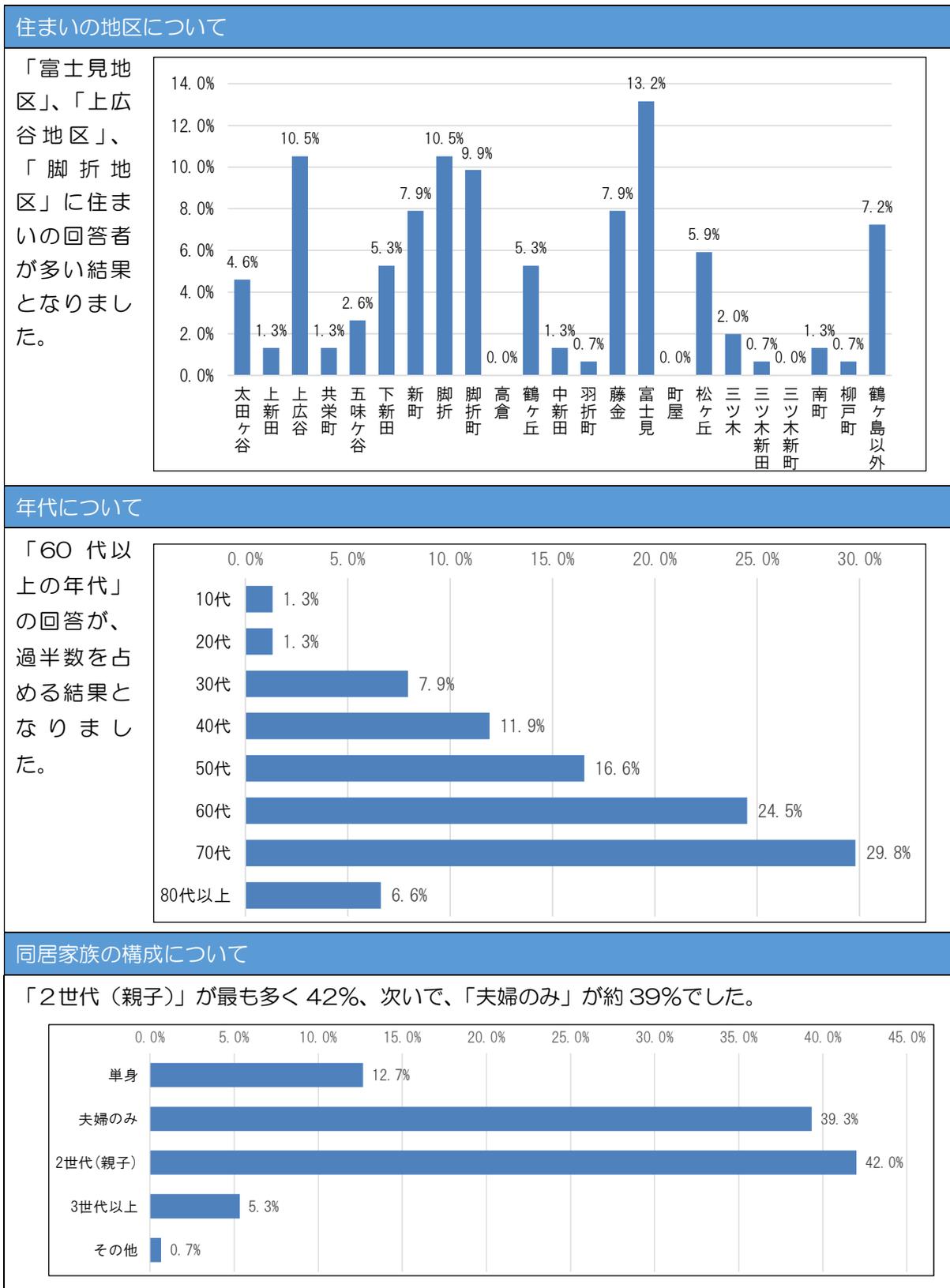
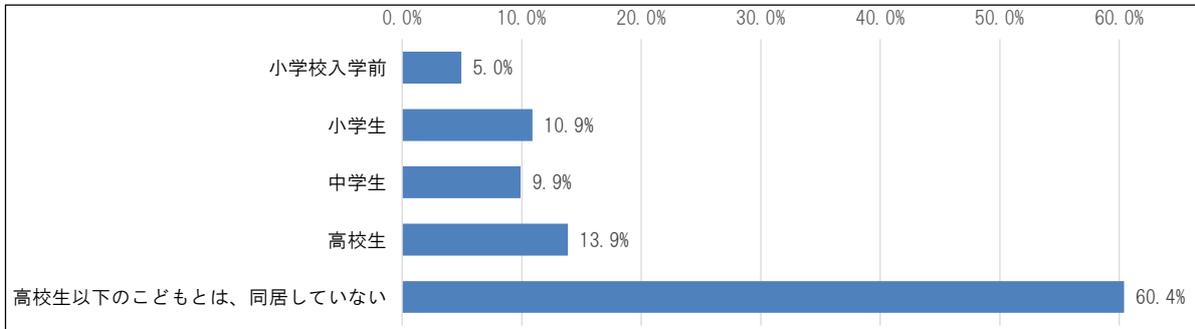


表 3-6 令和 2 (2020) 年度公共施設再編に関するアンケート調査結果の概要 (2 / 5)

同居している子どもの有無について

子どもとの同居の有無については、「高校生以下の子どもとは、同居していない」という回答が過半数を占めています。

また、小・中学校に通っている子どもと同居している割合では、「小学生」は約 11%、「中学生」は約 10%でした。



公共施設の利用頻度について

公共施設を「良く利用する(週 1・2 回程度)」が 49%、「たまに利用する(月 1・2 回程度)」が 36%であり、回答者の中では、公共施設を比較的良好に利用している方が多い結果となりました。

また、回答を年代別に見ると、「良く利用する(週 1・2 回程度)」と回答した方の 7 割は 60 代以上となっており、「たまに利用する(月 1・2 回程度)」と回答した方の 5 割は 50 代以下となっています。

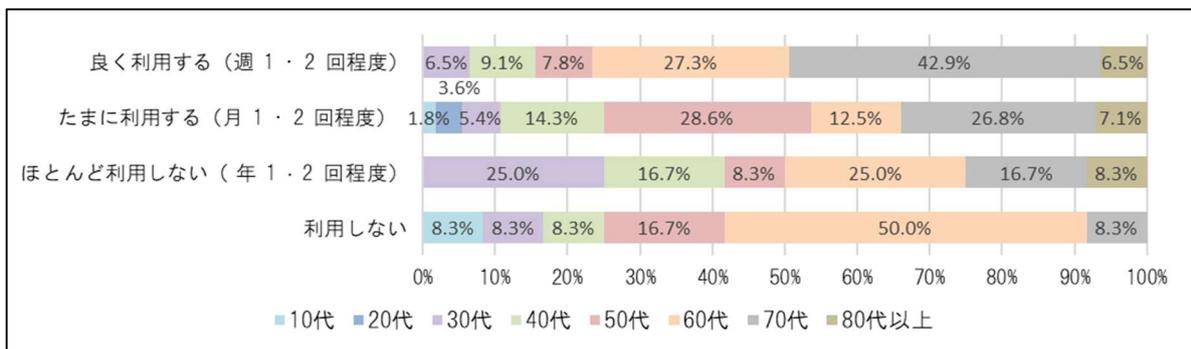
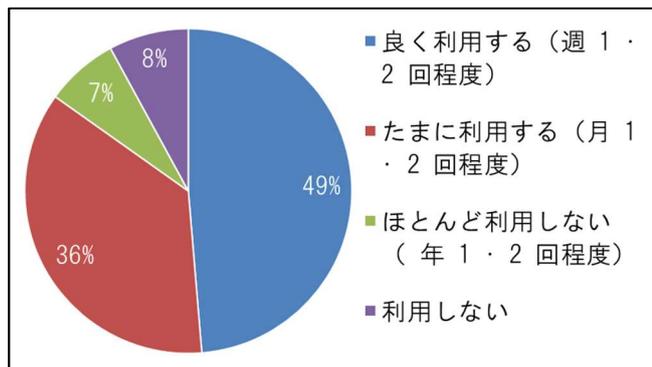
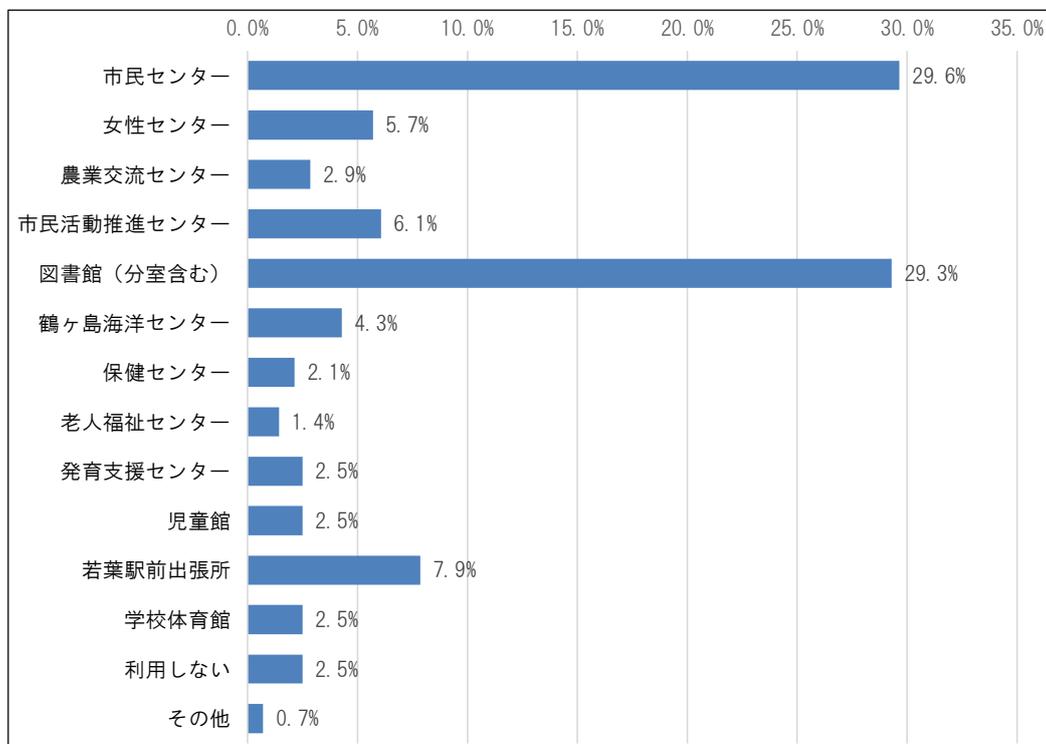


表3-6 令和2（2020）年度公共施設再編に関するアンケート調査結果の概要（3／5）

良く利用する公共施設について

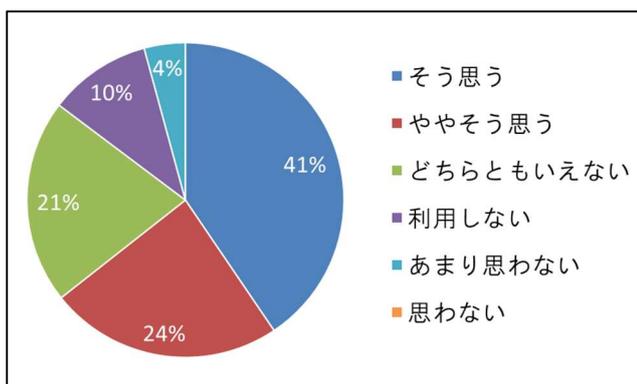
良く利用する公共施設は「市民センター」が最も多く約30%、次いで、「図書館（分室含む）」が約29%であり、その他の施設は10%を切る結果となり、利用する施設の中でも、顕著な差が出る結果となりました。その他の施設の中でも、「若葉駅前出張所」は約8%と若干高い傾向が見られました。



公共施設の統廃合等を行うことにより、維持管理運営コストの軽減を検討する際に、「単に余った施設を解体し、土地を売却するだけでなく、土地や建物の貸付、施設運営に民間のノウハウを活用するなど、様々な資産運用の可能性を探りながら、より効果的に市有財産を活用していく方法も併せて検討していく。」という考え方について

「そう思う」が41%、「ややそう思う」が24%であり、65%が概ね賛成の意見となり、14%が反対の意見でした。

反対の意見の中では、考え方に反対以前に、根本的に公共施設の統廃合事態に反対する意見が多く、設問に対して具体的に反対する意見では、「市の土地は、売却以外に、資産運用は、現実的には厳しく、民間業者が手を挙げるとは思えない」などの意見がありました。



「そう思う」と回答した方の約6割が60代以上となっており、「あまり思わない」では約8割が60代以上となっています。



表3-6 令和2(2020)年度公共施設再編に関するアンケート調査結果の概要(4/5)

あなたが思う、「市が、将来にわたって行政サービスを提供するために、特に維持や充実を図っていくべき公共施設」について

「図書館(中央図書館、分室)」、「学習施設(市民センター、女性センター、農業交流センター等)」、「教育施設(小・中学校、教育センター)」という意見が多く、それぞれ11%を超え、合わせると約40%を占めています。その他の施設は、全て10%を下回っていますが、「体育施設(体育館、海洋センター)」、「高齢者向け施設(老人福祉センター)」が約8%と若干高い傾向が見られました。

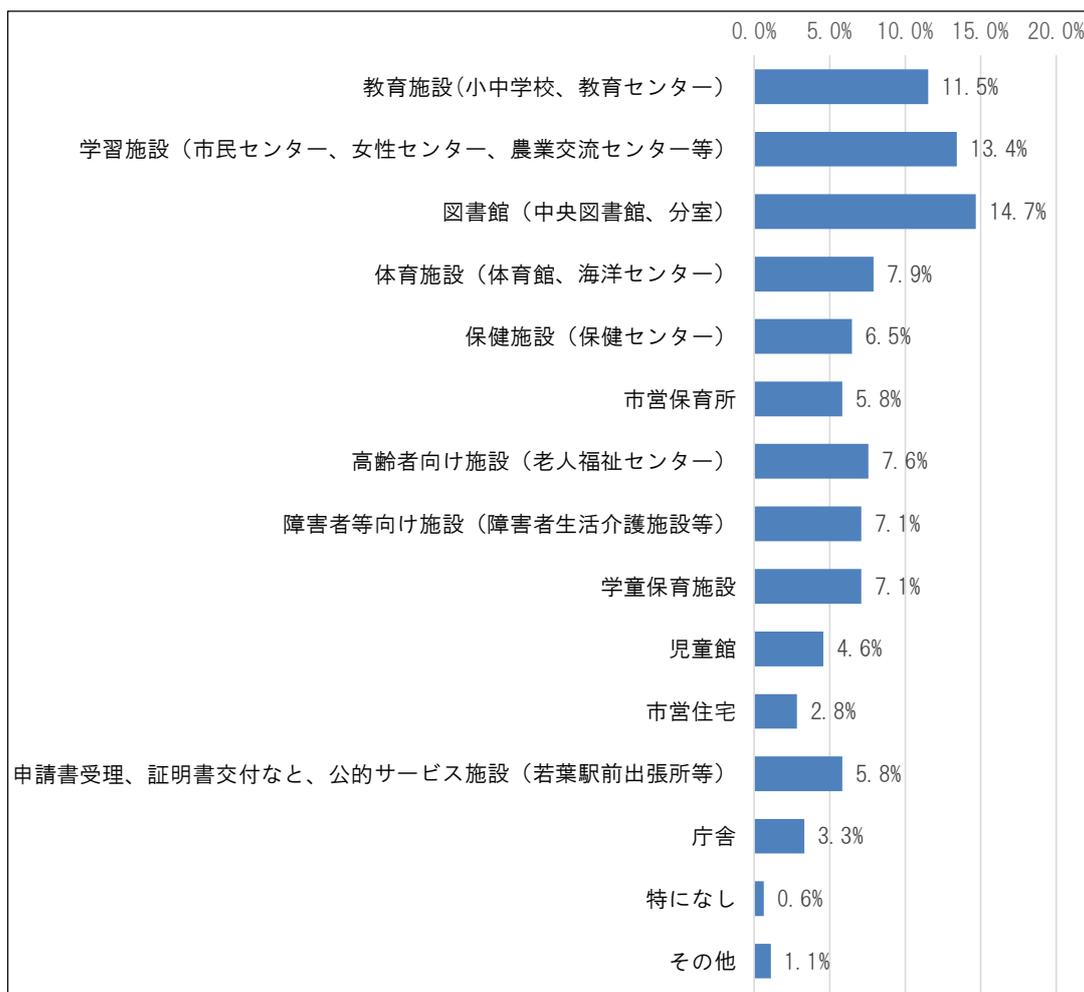
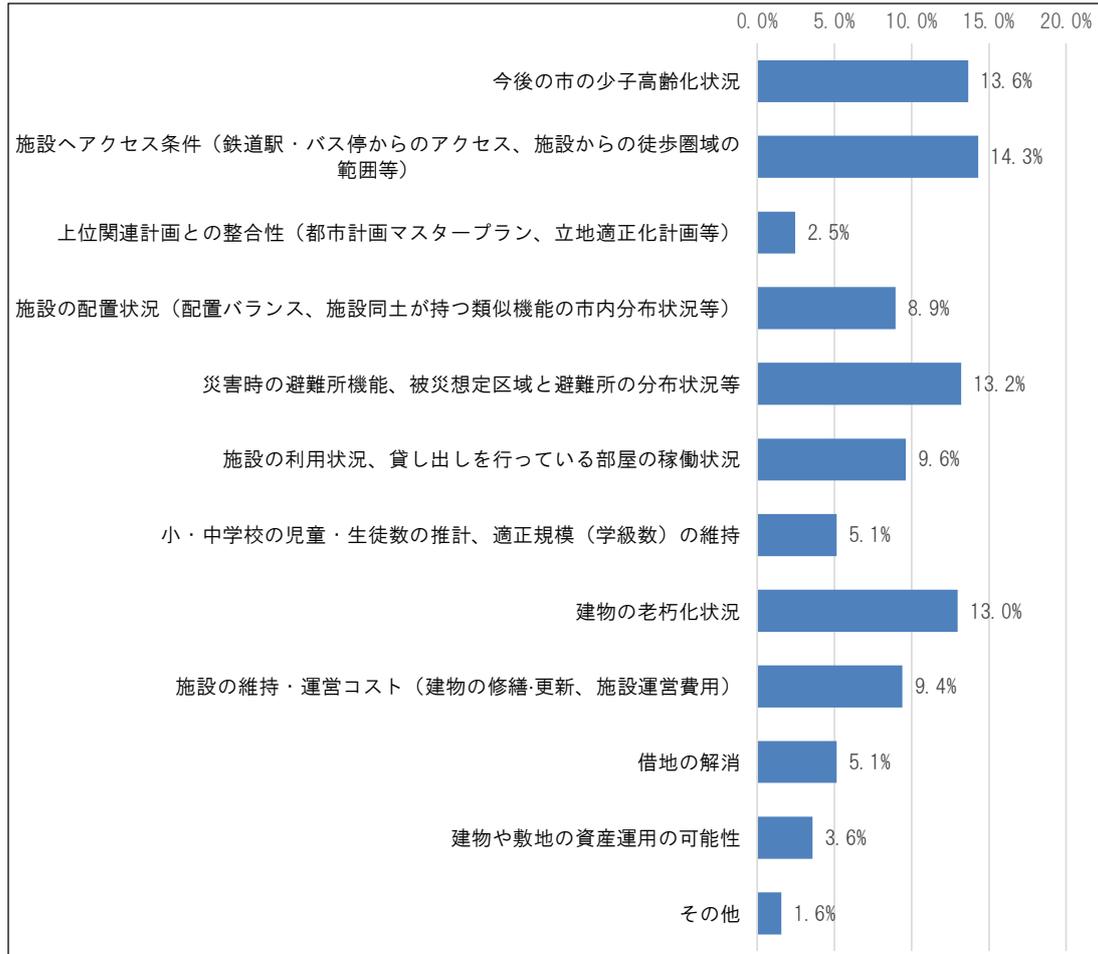


表 3-6 令和 2（2020）年度公共施設再編に関するアンケート調査結果の概要（5 / 5）

あなたが公共施設の再配置(廃止や統合、複合化、機能移転等)を検討する際に、重要視する検討項目について

「施設へアクセス条件(鉄道駅・バス停からのアクセス、施設からの徒歩圏域の範囲等)」、「今後の市の少子高齢化状況」、「災害時の避難所機能、被災想定区域と避難所の分布状況等」、「建物の老朽化状況」という意見が多く、それぞれ 13%を超え、合わせると約 54%を占めています。次いで、「施設の利用状況、貸し出しを行っている部屋の稼働状況」、「施設の維持・運営コスト(建物の修繕・更新、施設運営費用)」が約 10%となっています。



3-7. 令和2（2020）年度個別市民ヒアリング調査

今後の公共施設のあり方等について、令和2（2020）年度に実施した幅広い世代の個別市民ヒアリング調査結果の概要を整理しました。（表3-7）

表3-7 令和2（2020）年度個別市民ヒアリング調査結果の概要（1/2）

20代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの人数が減少した学校よりも、統廃合により、人数が増加した活気ある学校に通わせたい。 ② 統廃合により、廃校となった学校の校庭が活用できると、需要があると思う。 ③ サッカーをする際に、利用できる場所が少なく、学校の校庭が使用できることは需要がある。もっと利用できる場所があっても良い。
30代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書館分室を利用する機会は少ない。図書の本を返す時には使用するかもしれないが、たくさんの本を目的とする場合は、直接、中央図書館を利用する。 ② 鶴ヶ島市は、他市と比較しても児童館が多く、その点ではありがたいと感じている。 ③ 共働きで仕事をしているため、なかなか交流を目的として公共施設を保育所以外に利用していない。 ④ 学校の統廃合によって、通学距離が長くなっても、市域が小さいため特に反対という意見はない。通学距離が一部極端に長くなる市域があるのであれば、スクールバス等で対応すれば良いのではないか。 ⑤ 公共施設には、子どもが走り回れるような空間を求める。 ⑥ 高齢者世代と子育て世代との交流が生まれるような施設の利用ができれば良いのではないか。時代が変わり、昔と違って、現代の子どもとの接し方がわからない高齢者が多いと思う。孫の世代との交流について、高齢者世代もメリットがあり、需要があると思う。
40代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害に強い街は、魅力的である。 ② 南小学校や鶴ヶ島第二小学校については、児童数が少ないという声は聞いている。部活を行うための部員を集めることが大変である。合同でチームを作っても、野球やサッカーの成績は芳しくない状況と聞いている。 ③ 市に1校くらいは、教育環境を充実させた小中一貫学校を新設し、市民にお子さんの通わせる学校を自由に選択できるようにしても良いのではないか。 ④ 川越の「PIKOA」のような体育施設がほしい。
50代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 財政面から、体育施設の改修ができないのであれば、再配置の統廃合により、維持管理費が高い市民センターや図書館をいくつか廃止し、その分の費用を体育施設の新設や改修費用に回すべきではないか。 ② 市民センターにある図書館分室をいくつか廃止し、本は中央図書館に集約し、空いた分室のスペースに廃止する施設の機能や床面積を統合したら、いくつか市民センターが廃止できるのではないか。 ③ 廃校となった小学校や中学校の体育館が、市民が利用できる運動施設として有効活用したらどうか。
60代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 式典などの市内の行事をまとめて一括で行えるような体育館施設がほしい。 ② 女性センターは、女性に特化した機能としているならば、施設を十分に活用・利用しきれないと思う。 ③ 鶴ヶ島市は、災害が少なく、避難施設として予想される最大避難人数を収容できるのであれば、災害に強い街として売り出すのはどうだろうか。

表 3-7 令和 2（2020）年度個別市民ヒアリング調査結果の概要（2 / 2）

<p>70代～80代市民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢化により、公共施設へ歩いて行ける距離は短くなっている。 ② 大橋市民センターを使用している自治会もある。市内に多くの自治会館があるから、これからはもっと連携をとっていけば良いのではないかな。 ③ 小・中学校を統廃合して、学校の数を見直す場合は、通学区域が字の中で分断しないようにしてほしい。自治会も分断されているところもある。そういう部分で活動しにくいところがある。 ④ 一つの敷地で、様々な機能を持った建物があれば、その中で交流等が生まれるのではないかな。 ⑤ 今後は、より市民ニーズが多様化していくため、公共施設の部屋ごとの利用用途については限定的なものにせず、多目的な利用ができるようにしていくべき。 ⑥ 市民が小・中学校の統廃合について反対するのは、活動の拠点がなくなることであり、母校への思い入れで反対するわけではないだろう。学校でしか活動ができないわけではないから、他の代替施設等の活動拠点を用意すれば良いのではないかな。 ⑦ 高齢者の居場所がなくなっている。地域に点在して、高齢者の居場所となる施設が点在していた方が良いだろう。 ⑧ 小・中学校の人数がピーク時から半分程度減少しているのであれば、余っているスペースを有効活用しないと勿体ない。 ⑨ 廃校となった校舎や体育館を有効活用したらどうか。 ⑩ 施設が多く便利であるが、便利すぎると感じる部分もある。学校が多すぎると感じる。 ⑪ お年寄りが孤独に家でこもりきりにならないよう、外に出てきてもらうように、活動拠点として市民センターは、必要であると思う。 ⑫ 学校の空いている部屋を有効活用するべきである。 ⑬ 地域に根ざした密着した施設がたくさんあった方が良いと思う。 ⑭ 計画期間は長期になるため、今あるデータで予想される事象で計画していくべき。事態が変化したら、その都度、計画を改訂していけば良い。 ⑮ 市民センターは、今後も地域利用施設として、より重要となってくるし、利用も良くしている。
------------------	---

3-8. 令和3（2021）年度市民意見募集アンケート調査

個別利用実施計画（案）について、最終的な計画として完成させるため、より広く、多くの市民の皆さまからご意見を伺うことを目的に、令和3（2021）年度に実施した市民意見募集アンケート調査結果の概要を整理しました。（表3-8）

表3-8 令和3（2021）年度市民意見募集アンケート調査結果の概要（1/3）

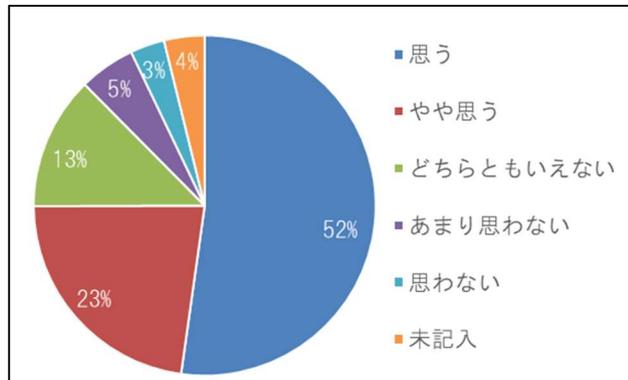
年代について																												
<p>「30代」の約29%と、「40代」の約32%で、過半数を占める結果となりました。30代、40代の子育て世代の回答を多く得ることができました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年代</th> <th>件数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10代以下</td> <td>6件</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>20代</td> <td>21件</td> <td>6.2%</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>99件</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>110件</td> <td>32.4%</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>19件</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>22件</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>70代以上</td> <td>61件</td> <td>18.0%</td> </tr> <tr> <td>年代不明</td> <td>1件</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年代	件数	割合	10代以下	6件	1.8%	20代	21件	6.2%	30代	99件	29.2%	40代	110件	32.4%	50代	19件	5.6%	60代	22件	6.5%	70代以上	61件	18.0%	年代不明	1件	0.3%
年代	件数	割合																										
10代以下	6件	1.8%																										
20代	21件	6.2%																										
30代	99件	29.2%																										
40代	110件	32.4%																										
50代	19件	5.6%																										
60代	22件	6.5%																										
70代以上	61件	18.0%																										
年代不明	1件	0.3%																										
公共施設の利用頻度について																												
<p>公共施設を「よく利用する（週1・2回程度）」が29%、「たまに利用する（月1・2回程度）」が39%であり、回答者の中では、公共施設を利用している結果になりました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>利用頻度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく利用する（週1・2回程度）</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>たまに利用する（月1・2回程度）</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>ほとんど利用しない（年1・2回程度）</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>利用しない</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>未記入</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	利用頻度	割合	よく利用する（週1・2回程度）	29%	たまに利用する（月1・2回程度）	39%	ほとんど利用しない（年1・2回程度）	24%	利用しない	7%	未記入	1%															
利用頻度	割合																											
よく利用する（週1・2回程度）	29%																											
たまに利用する（月1・2回程度）	39%																											
ほとんど利用しない（年1・2回程度）	24%																											
利用しない	7%																											
未記入	1%																											
今後の公共施設のあり方について、「市民の皆さまの意見や意向を十分に配慮し、災害時の安心・安全や、様々な利用や世代を受け入れる多様性、多世代間の交流など、地域との繋がりを持った公共施設にした方が良いと考えています。」この考え方を良いと思うかについて																												
<p>「思う」が約71%、「やや思う」が約17%であり、約88%が賛成の意見となり、約3%が反対の意見でした。反対の意見で一番多かったのは、「西中学校に移転ではなく、鶴ヶ島中学校へ移転のほうが市役所と近くて良い」などの意見がありました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>意見</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>思う</td> <td>71.1%</td> </tr> <tr> <td>やや思う</td> <td>16.5%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>2.7%</td> </tr> <tr> <td>あまり思わない</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>思わない</td> <td>2.7%</td> </tr> <tr> <td>未記入</td> <td>2.7%</td> </tr> </tbody> </table>	意見	割合	思う	71.1%	やや思う	16.5%	どちらともいえない	2.7%	あまり思わない	0.6%	思わない	2.7%	未記入	2.7%													
意見	割合																											
思う	71.1%																											
やや思う	16.5%																											
どちらともいえない	2.7%																											
あまり思わない	0.6%																											
思わない	2.7%																											
未記入	2.7%																											

表 3-8 令和 3（2021）年度市民意見募集アンケート調査結果の概要（2 / 3）

市民センター等の再配置にあたり、地域住民が自ら利用し、多様な活動を通じた幅広い世代の交流の場として考え、地域に密着した必要不可欠な施設として残すようにしました。また、再配置による統廃合によって、避難所としての機能を失わないようにしました。これにより、概ね存続もしくは、他の公共施設へ移転、複合化するようにしました。この再配置の考え方で良いと思うかについて

「思う」が 52%、「やや思う」が 23%であり、75%が賛成の意見となり、8%が反対の意見でした。

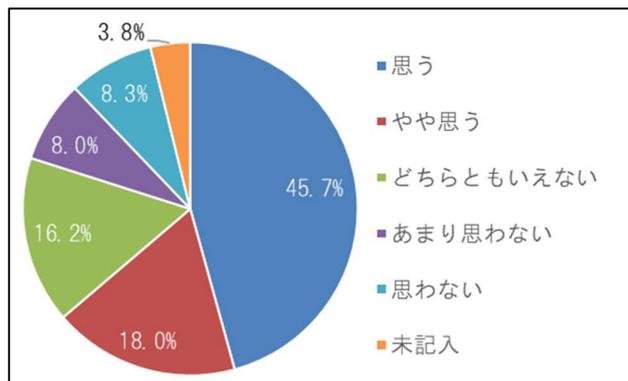
反対の意見で一番多かったのは、「市民センターの移転」に関する意見であり、「市民センターは移動の困難な方が利用することが多いと思います。再配置（移転等）により遠くなり利用できない方が出るのではないか」などの意見がありました。



小・中学校の再編に当たり、少子化に伴う児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化などに対応するため学校再編案を作成しました。今後の児童・生徒数の推移や各学校の配置状況等を踏まえ、現在の学校教育の水準を将来にわたって維持・向上させ、良好な教育環境の整備・充実を図るため、計画的に取り組む内容としました。この学校再編案の考え方で良いと思うかについて

「思う」が約 46%、「やや思う」が 18%であり、約 64%が賛成の意見となり、約 16%が反対の意見でした。

反対の意見で一番多かったのは、「学校再編による通学への不安」に関する意見であり、「統廃合による交通（通学路）の安全性、通学時間などの統合先までの時間的な面を考慮してほしい」などの意見がありました。



再配置によって残す公共施設を将来にわたって維持していくためには、施設更新や維持管理による財政負担を軽減させる必要があるため、長寿命化による耐用年数の延長や現実的で実行可能な年度予算額とするために施設維持費を平準化するなど、計画期間中に必要な経費の圧縮を図りました。また、廃止予定の施設についても、施設を安全に利用していくため、施設を廃止するまでの保全計画や維持していくために必要な費用について示した計画としています。このような将来にわたる施設維持と財政負担を考えた計画で良いと思うかについて

「思う」が約 46%、「やや思う」が約 27%であり、約 73%が賛成の意見となり、約 4%が反対の意見でした。

反対の意見で一番多かったのは、「施設の廃止」に関する意見であり、「施設を廃止する予定のところは、早く代替りの新施設を作るべきだと思う。施設を有効活用するなら新施設ができるまでの間は修理、改修をしないほうが良い」などの意見がありました。

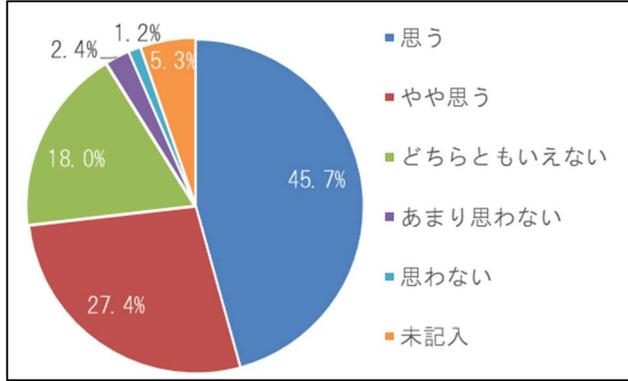
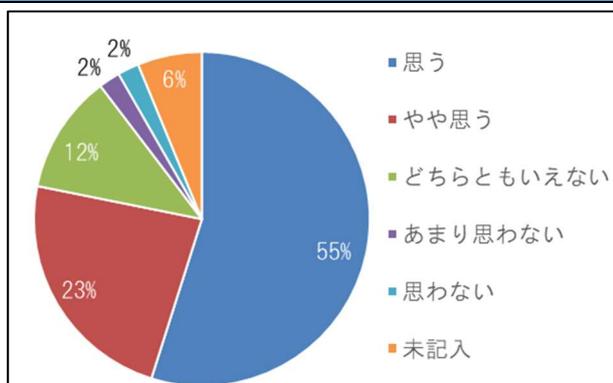


表 3-8 令和3（2021）年度市民意見募集アンケート調査結果の概要（3/3）

再配置によって廃止や移転とした施設の有効活用については、市民ニーズや利用状況を踏まえ、改修（リノベーション）等による施設の再利用と、土地や建物の貸付や土地の売却等による資産運用を十分に検討して、可能な限り財政負担の軽減を図るように計画しました。このような廃止施設の有効活用や資産運用の考え方で良いと思うかについて

「思う」が55%、「やや思う」が23%であり、78%が賛成となり、4%が反対の意見となりました。

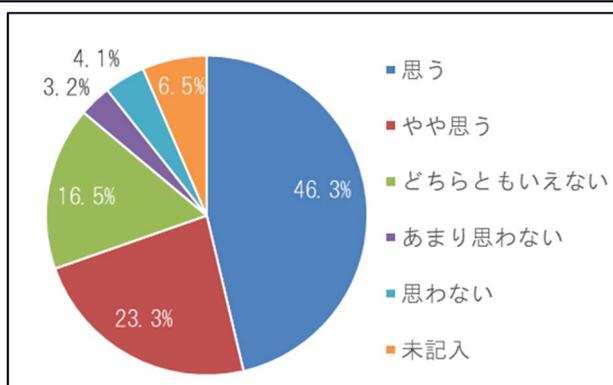
反対の意見で一番多かったのは、「土地の売却」に関する意見であり、「土地の売却により、無計画な開発がなされないように売り先をきちんと見極めることが必要だと思う」などの意見がありました。



（新）複合施設（旧庁舎跡地に建設予定）の建設時期は未定ですが、市有地を活用した公共機能の再編を図るため、旧庁舎跡地（市有地）に社会福祉支援や健康増進の拠点化を図ることを目的として、（新）複合施設を新設する計画としました。この（新）複合施設を建設する計画で良いと思うかについて

「思う」が約46%、「やや思う」が約23%であり、約69%が賛成の意見となり、約7%が反対の意見となりました。

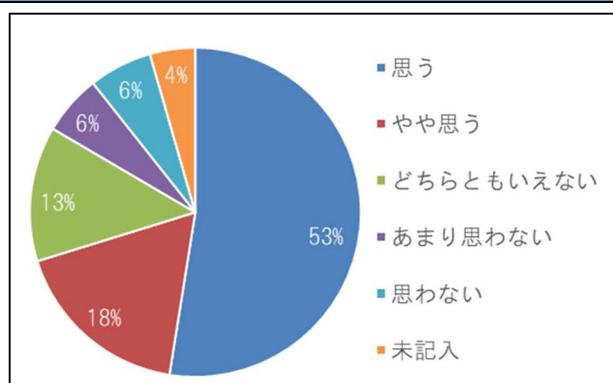
反対の意見で一番多かったのは、「複合施設建設の必要性」に関する意見であり、「複合施設よりも市民センターの充実を図ったほうが良い」などの意見がありました。



（新）市民体育館（建設場所未定）の建設時期は未定ですが、屋内運動施設の市民ニーズや利用状況の高さを踏まえ、市民大会や市の行事等を一括して開催できる規模の（新）市民体育館を建設する計画としました。この（新）市民体育館を建設する計画で良いと思うかについて

「思う」が53%、「やや思う」が18%であり、71%が賛成の意見となり、12%が反対の意見となりました。

反対の意見で一番多かったのは、「既存施設の有効活用」に関する意見であり、「新しい施設を作るお金で、子どもたちの未来のために出来ることを考えるべきだと思います。廃校になった学校の体育館を改修などして使えば良いのではないか」などの意見がありました。



3-9. 令和3（2021）年度個別市民ヒアリング調査

個別利用実施計画（案）について、令和3（2021）年度に実施した幅広い世代の個別市民ヒアリング調査結果の概要を整理しました。（表3-9）

表3-9 令和3（2021）年度個別市民ヒアリング調査結果の概要（1/2）

20代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 他市町村と比べ、子どもが育てやすいような環境にしていき、子育て世代を呼び込むようにするなど、子どもの数が減少しないようにしていってほしい。子どもたちにとって、学校環境が変わらないに越したことはないと思う。 ② 廃校後の西中学校の有効活用で移転される施設機能が、普段利用しないものばかりである。自分たちが使うような若い世代に需要のある機能を入れてほしい。 ③ 体育館を利用する場合は、他市の体育施設へ行ってしまう。数より質を重視して、施設が少なくても質の高い施設があった方が個人的には、利用すると思う。
30代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 公共施設の再配置計画と併せ、市として魅力や特色、鶴ヶ島らしさを打ち出していくことが重要であると思う。ただし、新たなものを作り出すというのではなく、既にあるものについて、発信していけば良いのでは。 ② 新施設を建設する際には、単独の機能を持つ施設ではなく、異なる目的で施設を利用しに来た人同士で、交流が生まれるような複合施設を目指したらどうか。 ③ 親としては、学校の統廃合により、通学距離が極端に長くなる場合は、通学路の安全対策やスクールバス等の対応などをしてほしい。
40代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① （新）市民体育館は、今まで市としての体育館がなかったため、良い案だと思う。 ② 学校の統廃合を行った際に、統合後、存続させる学校については、新しいインパクトのある改修を行ってほしい。 ③ 廃校となる学校の校舎は、新たに魅力あるもの施設機能を提供していくなど、有効活用していったらどうか。
50代市民	<ul style="list-style-type: none"> ① いずれ、公共施設の再配置を実施するのであれば、時期をもっと早めて行うべきであり、前倒しでできるような算段を打っていくべきである。 ② 学校の統廃合を早く行って、財源を確保し、（新）市民体育館を建設してほしい。 ③ 学校の統廃合により、通学距離が長くなったとしても、通学路を適切に整備し、自転車通学などの対応をしていけば良いのではないか。
60代以上市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 再配置計画では、公共施設が抱える課題や問題を解消することや効率化するだけではなく、市の魅力として打ち出していけるようなものも併せて造っていくべきだと思う。 ② 今後、長期にわたって再配置を進めていく上では、地域ごとの不満等の問題点を探り、具体的にどのように解決していくのか示すなど、市民に安心材料を提示して、希望が持てるようにしてほしい。 ③ 学校再編は、統廃合等の再編時期について、可能な限りスピードアップするべきである。 ④ 学校再編により、廃止する校舎の防災備蓄庫は、体育館に移動させるなどした方が良い。

表 3-9 令和 3（2021）年度個別市民ヒアリング調査結果の概要（2 / 2）

<p>60 代以上 市民（続き）</p>	<p>⑤ 南小中一貫教育校化をやるなら、ハードの面だけでなく、内面的なソフト面でも結果が出るようなやり方があると思う。南小中一貫教育校のやり方がうまくいけば、全市的に波及していくのではないかと。</p> <p>⑥ 小中一貫教育の推進は、市全体で推進して行ってほしい。</p> <p>⑦ 鶴ヶ島市は、借地が非常に多い。市の財産になっていないところがとても気になっていた。だから、市の借地返還を考慮した計画（案）は、ありがたいと感じた。ぜひ実現してほしい。</p> <p>⑧ 自治会館が市民センターと同様に、様々な人を受け入れられるような施設として活用していけたら良いのではないかと。</p> <p>⑨ 若葉駅前の市有地は、価値のある土地だから、ぜひ有効活用してほしい。自転車置き場にしておくのは勿体ない。</p> <p>⑩ 旧庁舎が今後どうなるのかが気になっていた。個人的には、この場所が、地域の活動拠点施設として利用できたら良いと思う。</p> <p>⑪ 人口を増やす観点から見ると、若葉駅や鶴ヶ島駅から近い場所に複合的な公共施設ができた方が、若者や新たな人を呼び込むことができると思う。</p> <p>⑫ 再配置の計画自体は、良いと思うが、全体的に実施時期をもっと前倒しで進められないのか。特に、鶴ヶ島市には市民体育館がないため、（新）市民体育館については、早く建設してほしい。</p> <p>⑬ 市民活動推進センターの場所は、立地の利便性から、今までと同様に空間は利用できるようにしてほしい。</p> <p>⑭ 鶴ヶ島市は、災害に見舞われる可能性が少ないから、一般の市民から見れば、避難施設の必要性が低い意見もあるかもしれない。しかし、数年前の大型台風が到来した時には、北市民センターへ多くの人が避難してきた。災害時には、その地域のコミュニティで、要支援者を守っていくことは重要であると個人的には思う。</p> <p>⑮ 今後、自治会は、維持すること自体が困難になっていくと思う。市が防災面で、自治会との連携を考え、自治会を避難時に集まれる場所としたり、各地域の防災備蓄庫として準備するなど、災害時に有効活用できるよう対応していったら良いなと思う。</p> <p>⑯ 学校を統廃合した場合、登下校の範囲が広がり、通学距離が長くなる。人通りが少ない道を歩く所も増えるだろうから、通学路の安全対策は検討してほしい。</p> <p>⑰ 高齢者にとって、交通の便が不安な点がある。市全体として公共施設の再配置を考えるのはわかるが、近所の公共施設がなくなってしまう市民にも交通の利便性を図り、地域性によって、不満が生じないよう将来的に対応して行ってほしい。</p> <p>⑱ 鶴ヶ島市は、災害に見舞われることが少なく、平和なところであると思うが、遊べる場所等、何か楽しみや魅力として打ち出すような部分を新たに用意していくべきだと思う。若い世代を引き込むような魅力ある市にしてほしい。</p> <p>⑲ 鶴ヶ島市は、災害がないとは言われているけど、地震もさることながら、水害や竜巻などの災害が発生したときに防災拠点が大事になってくると思う。防災の意識を高めるためにも、計画でいう「これからの公共施設の目指すべき姿」の「安心・安全」の部分では、防災拠点の言葉を入れ込んでいった方が良いと思う。</p>
--------------------------	---

3-10. 令和3（2021）年度議会による市民意見聴取

個別利用実施計画（案）をより良いものとするために、令和3（2021）年度に実施した市民意見聴取結果とアンケート結果の概要を整理しました。（表3-10・表3-11）

3-10-1. 議会報告会 2021

表3-10 議会報告会 2021 による市民意見聴取の概要

西・北市民センター地域の市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 小学校の統合によって、通学の時間帯が早くなる。地域・保護者に早い段階で丁寧な説明がほしい。 ② 中学校においても、通学方法等の変更などがあれば早い段階で説明してほしい。 ③ 通学の安全面が心配。見守りの強化・防犯カメラの設置など考えてほしい。 ④ 西中の再利用によって交通の流れが変わるのでは。交通量が多くなることが予想されるので、安全面の検討をしてほしい。 ⑤ 西中の再利用について、複合の福祉施設がどのような計画で進むのか、福祉の充実という点で、しっかり計画を立ててほしい。 ⑥ 学校の敷地内に市民センターの機能を入れては。学校をもっと市民に開放し、学校は学校だけではなく、色々な機能を共存させて学校を地域のコミュニティの場となる多機能の施設にしては。
東・富士見・南市民センター地域の市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 少子化の対策、子育て世帯の応援など具体的に目に見えるような政策を進めるべき。子どもが増えている自治体の情報を入れながら活用する道筋をたてる調査。6年後はあつという間、子どもたちの準備についても議論しながら進めては。 ② 街灯、通学路のことをしっかりとしてもらいたい。 ③ 富士見市民センターを若葉駅周辺の商業施設の建替えに伴って移転併設についての具体的内容は。 ④ 市民活動推進センター廃止は決定か。機能が低下し利用が減ってしまっている。他地区の団体と会う場であり、全市的な市民活動団体の会合の場だった。子育てのサポートなど市民活動団体が必要とされてくるのに、これから共助が必要だと言われているのに、なぜ元を作り出す施設を廃止するのか。代わるべき機能、市民活動を支援する仕組みはどうなっていくのか。 ⑤ 統合じゃなくて、夢のある、公共施設は一体化してもっと素晴らしいのを作るとい話の方がわかりやすい。急いでいる意味はあるのか。
大橋・南市民センター地域の市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 第二小体育館は防災で残すが校舎は。 ② 再編により小中学生は遠くなる。交通事故、事件が起きており危険。スクールバスで安心した通学。 ③ 総合福祉支援センターを箱モノとして、小・中学校を利用して、バリアフリーを取り入れて建設してもらいたいという機能の要望。南中は統合と聞いたが、障害者当事者のバリアフリーについて意見を聞いて改善してください。 ④ 南市民センターを文化会館に移設と聞いているが、時期は、20年ではなくもっと早く考えてもらいたい。 ⑤ 暮らしやすいまちづくりを目指して、具体的なことがわからない。引越してきて子どもたちが増えていく、そんなまちづくりが大事。

3-10-2. 議会による公共施設等個別利用実施計画（案）アンケート調査

表 3-11 議会による公共施設等個別利用実施計画（案）アンケート調査結果の概要

<p>小・中学校の再編について</p>	<p>① 児童生徒の現状と今後の数値からして小・中学校の適正規模の見直しを図ることは必要で小・中学校再編を進めることは妥当と考えます。小・中学校は、地域の発展に伴って整備した地域の中心的な公共施設であり、地域の暮らしに深く根付いた施設で、再編を進めるにあたっては、地域住民に趣旨、年次計画等をしっかり示して、懇切丁寧に説明し、理解を求めていく必要があります。</p> <p>② 施設の老朽化や費用対効果から、児童数が大幅に減少するのであればやむを得ないとは思いますが。学区域の拡大により、事故等の発生機会も増えるため、児童等の安全確保は欠かせず、通学路の点検整備や見守り活動の一層の充実に加え、例えば、小1・2年生などの低学年や遠距離の児童等を対象とした通学用バスの運行なども検討する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>③ 児童生徒数の減少であればやむを得ない措置と考えられるが、遠距離の中学生の通学は自転車利用になるのか。小学生の遠距離通学は通学バスの手配をするのか。あるいはどんな方法を計画しているのか。</p> <p>④ 学校の統合により通学範囲がとても広くなると思います。小学校はスクールバスの検討も視野に入れていただけると良いと思います。</p>
<p>小・中学校以外の公共施設について</p>	<p>① 市民活動推進センターは廃止するとのこと、理由は、市民活動が充実したので、廃止するとのこと。何かの間違いでないかと、思いました。市民活動は、高齢化社会や地域の繋がりなどが大切と言われ、今後ますます重要になる活動と言われている中で、鶴ヶ島市は、市民活動をどのように位置づけ、どのような政策をやろうとしているか、ご示唆いただければ幸いです。</p> <p>② 富士見市民センターについて、若葉駅周辺の都市機能誘導区域にある民間商業施設の建替えの際に複合化、多機能化して移転併設するとのことですが、現在の駐車場スペースの活用も含めて、なるべく早い時期にまちづくりの設計をしてほしいと思います。現役世代が便利に利用できる施設が若葉駅前にできたら、活性化につながると思います。</p> <p>③ 学校や市民センターは防災拠点、避難場所としても想定されていると思いますが、今後防災施設はどうなるのか。防災防疫の体制強化の必要性が高まる中不安が残ります。</p> <p>④ 新町住宅の廃止後はどうなるのか。生活に困窮する世帯が増える可能性がある状況で住宅の確保ができるのか。</p>
<p>実施する時期について</p>	<p>① 10年という期間には地域社会や世代の意識なども変わっていくことが考えられますので対象施設も多いため、可能なものからできる限り前倒しして具体化していく必要があると考えます。</p> <p>② 社会情勢を的確に把握、判断し、計画の随時見直し修正を行い、やるべきことは早急に実施すべきと思う。</p> <p>③ 終了10年以内を目標に計画を進める。高齢化、少子化は進行中、早々に計画を実施し住み良い地域にすることが少子化を止めることにつながる。早急に検討してほしい。</p> <p>④ 5年ごとの見直しの検討は、市民に公表し、また意見を集めることも大切です。宜しく願います。</p> <p>⑤ 廃校は遅い方が良いが、複合施設化は急いでも良いと思う。</p>